

組織キャンプにおけるカウンセラーの意識変化に関する研究

○廣田 治久(余暇問題研究所) 栗原 邦秋(〃)

キーワード：組織キャンプ、カウンセラー、意識変化、相互影響

●緒言

教育目的のもとに開催されている組織キャンプに対し、近年さらにその期待が高まっている。組織キャンプ成功の鍵(可否)は、周到な計画と実施に携わるスタッフによる人的資源が安定した役割を果たすことにある。とくにキャンパー達に最も近い位置にありながら、その指導を担うカウンセラー達の行動は、キャンパー達に強い影響を与え、同時にそこから生まれたキャンパー達の行動や反応はカウンセラーにも影響を大きく与えている。即ち、互いに影響を受け、かつ与え合う相互影響の関係にある。

指導的立場に立つカウンセラーは、安定、公平、快活な状態を保つことが求められる。しかし、その内面では多様な変化が絶えず繰り返されていることが推察される。

そこで本研究では、キャンプ期間中のカウンセラーの内面(意識)に着目し、その傾向を見出すことにより、将来の組織キャンプ運営に有益であろう示唆を得ようと意図した。

●目的

- 1) キャンプ期間中のカウンセラーに意識変化のあることを確認する。
- 2) カウンセラーの意識変化が確認された場合その傾向および特徴を見出す。

●方法

- 1) 調査：自己の意識をSD法により記す質問紙を作成。

質問項目…①「キャンパー達をリードした自信の度合い」

②「キャンパー達へ話や説明が上手に出来たか」

③「必要な時に上手に注意したり、時には叱った自信の度合い」

④「リーダーとして、『体力的余裕』の度合い」

⑤「明日に向ける気持ちはどのようですか(不安・心配)」

キャンプの日程ごとに、当日の最終に質問紙を配布、回答後ただちに回収。

対象：下記キャンプにおける10名のカウンセラー。

・全員が高校生で高校1年…4名、高校2年…5名、高校3年…1名

・区のジュニアリーダー養成講習を終了し、現在地域での子供会活動、地域ごとのキャンプ等の経験をしている。キャンプ参加にあたり、事前にリーダー研修を受講

- 2) 分析：①回答を数値化し、その結果をグラフ化。

②キャンプ期間中のイベント(諸事・トピックス)との照合を図り、傾向・特徴の抽出。

●キャンプの概要

主催：区教育委員会 会場：東京都八丈島

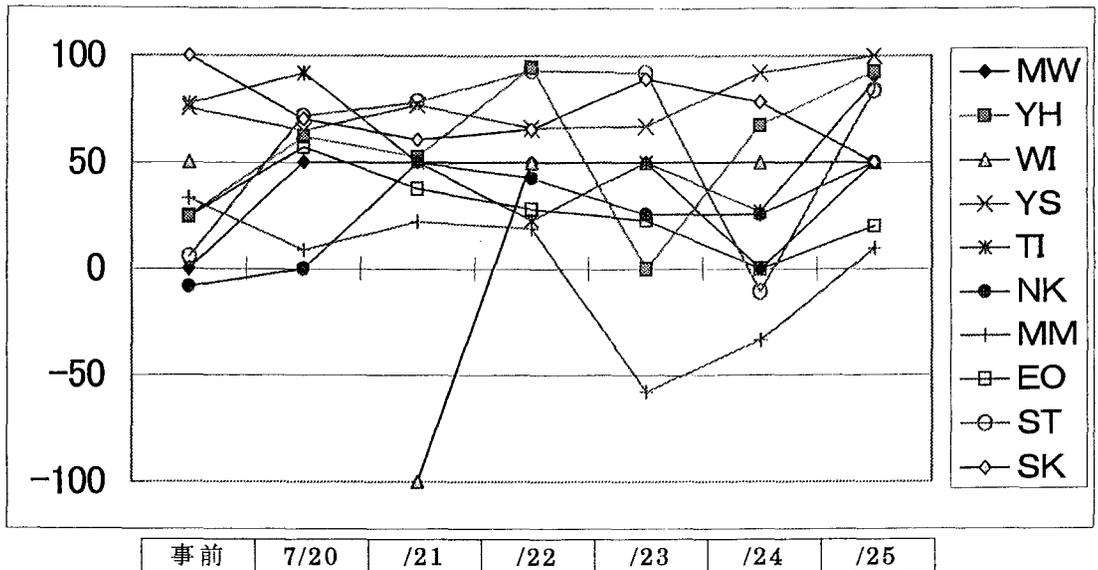
目的：①「自然の素晴らしさ・厳しさを体験する」 ②「自然の中での生活力をつける」

③「仲間との関わりの中で、自主性・協調性・責任感を身につける」

形態：自然生活体験型、テント泊、自炊

規模：キャンパー…80名 スタッフ…26名

● 結果・考察



グラフ：「キャンパー達をリードした自信の度合い」

- 「キャンパーをリードした自信」については、概ね積極的・肯定的(プラス方向)の範囲にありながら、多様な変化を示した。
- マイナス方向へ著しい変化を遂げた場合、そこにはキャンパーをリードする上での困難に直面している。(担当キャンパーからの当惑の帰宅希望、キャンパー間の不和、ケンカ)
- それらの問題がある程度の解決・改善されるとプラス方向へ変化が見られた。
- 比較的安定(変化の小さい)を示したカウンセラーが担当した班では、特出した問題がなく、班員同士が協力的・民主的であった。
- 他の質問項目における変化も多いに多様な変化を示した。とくに「体力的自信」においては、最も著しい変化を示した。

● 結論

- 1) キャンプ期間中のカウンセラーの意識が多様に変化することが確認された。
- 2) その傾向は、①リーダーとしての自信については、担当したキャンパー間における問題が発生・直面した場合マイナス方向へと変化し、当該の問題が解決・改善した場合プラス方向への移行・復元する、②自己の体力に対する意識は最も顕著な変化を示した、③キャンプ終了時点では、概ねプラス方向への意識変化が見られた。安堵感・達成感が作用していると考えられる。
- 3) 今回の研究においては、カウンセラーの意識変化の詳細を探るまでには及んでいない。今後は①より克明な状況記録方法の考案、ならびに②客観的尺度を設ける意識変化の測定方法を検討することにより、カウンセラーの行動に強く影響を及ぼす事象の特定とそのメカニズムの究明を図り、実際の組織キャンプ運営において実用可能な成果を求めていきたい。